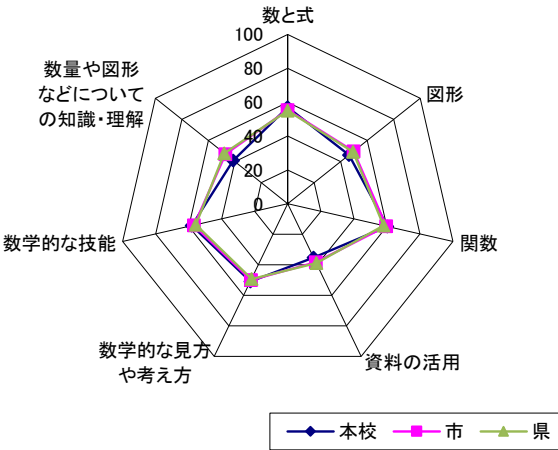


宇都宮市立陽南中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	57.0	55.4	55.0
	図形	46.3	49.8	49.2
	関数	60.3	59.6	58.0
	資料の活用	35.3	38.3	38.9
観点	数学的な見方・考え方	50.9	50.0	49.3
	数学的な技能	58.1	56.7	55.7
	数量や図形などについての知識・理解	41.1	47.0	47.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○数と式の領域では、県の平均を2ポイント上回っている。 ○文字式では、県の平均を3.5ポイント上回っている。 ○1次方程式では、県の平均を2ポイント上回っている。 ●正・負の数では、県の平均を1.2ポイント下回っている。 ●自然数を選ぶ設問では、県の平均を15ポイント下回っている。	・計算問題は、授業の中だけでなく、家庭でのドリル形式の課題を取り入れて基本の定着を図っていく。 ・正・負の数に関する知識が定着するように丁寧に指導し、計算を繰り返し解くことで正確に速く処理できる力をつけていく。
図形	●図形の領域では、県の平均を2.9ポイント下回っている。 ○平面図形では、県の平均を0.3ポイント上回っている。 ●空間図形では、県の平均を5.3ポイント下回っている。 ●空間図形で直方体のねじれの位置を答える設問では、県の平均を8.6ポイント下回っている。 ●空間図形で直方体にかけたひもを展開図にかく設問では、県の平均を6.7ポイント下回っている。	・定規・コンパスを用いて丁寧な作図をし、図形の性質をきちんと理解させる。 ・実際の立体や視聴覚教材等を用いて、空間図形をイメージしやすくするように配慮する。
関数	○関数の領域では、県の平均を2.3ポイント上回っている。 ○比例・反比例では、県の平均を2.3ポイント上回っている。 ○水槽の深さから時間の差を求める設問は、県の平均を8ポイント上回っている。 ●与えられた座標に合う点を選ぶ設問は、県の平均を1.3ポイント下回っている。	・式・表・グラフの関係を理解できるよう、日常生活の中で関数に関連のある題材を用意し、生徒の興味・関心が高まるように努める。 ・上位層と下位層の差が大きく定着度が2極化しているので、理解が不十分な生徒の習熟度別指導を検討していく。
資料の活用	●資料の活用では、県の平均を3.6ポイント下回っている。 ●度数分布表から中央値や相対度数を求める設問では、県の平均を1.5～4.7ポイント下回っている。 ●平均正答率が4割を割っている。	・度数分布表や階級値、代表値などの意味を丁寧に指導する。その上で、身近な事例を紹介して、興味・関心を高めるとともに、知識の活用を図る。 ・データの処理や度数分布表の作成などにおいて、グループ活動を通して、協力しながら学び合う学習を取り入れる。